

第4回小牧市健康・支え合い循環推進会議 議事要旨

日 時	令和5年3月20日（月）14時00分から16時00分まで
場 所	小牧市役所 本庁舎3階 301会議室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>柴田 謙治 金城学院大学 教授          伊藤 博美 椛山女学園大学 教授          加藤 武志 中京大学 講師／まち楽房有限公司 代表取締役          伊藤 大介 日本福祉大学 助教          田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 在宅福祉課長          関 哲雄 こまき市民活動ネットワーク 事務局長</p> <p><b>【市政戦略本部 本部長】</b></p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>入江 慎介 健康生きがい支え合い推進部長          江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部次長          永井 政栄 健康生きがい推進課長          倉知 昌孝 支え合い協働推進課長          岩下 貴洋 健康生きがい推進課係長          岡田 洋平 支え合い協働推進課係長          丹羽 勇人 支え合い協働推進課主事</p>
傍聴者	0名
配布資料	資料1 第4回会議資料

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>1) 議題 健康・支え合い推進会議のとりまとめ案</p> <p>①第1章 健康・支え合い循環推進会議の設置と検討の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局による資料説明</li> </ul> <p>○柴田会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書は読者にとって分かりやすいことが重要である。第1章は背景等をまとめたものであり、特に意見もないので、第2章の議論に移りたい。</li> </ul> <p>②第2章 健康・支え合いの循環に関わる制度等の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局による資料説明</li> </ul>
---

○柴田会長

- ・これまでの議論や扱ったデータを報告書として整理していただいた。
- ・P14の課題の記載については、冒頭に「・」を入れる。

○伊藤博美委員

- ・P11の支え合いいきいきポイントの実績データについて、介護施設、サロン、地域のそれぞれの活動内容が伝わりづらいため、記載の方法を検討いただけるとよい。

○田中委員

- ・支え合いポイントは高齢者のみでなく、居場所を必要としている人に広がってきている。現状では高齢者向けサロンが多いが、障がい者等の居場所としても記載できるとよいのではないか。

○柴田会長

- ・ご指摘のあった視点を追加できるとよいだろう。名古屋市港区では、ひきこもりの方の参加支援として、駄菓子屋を地域で実施することを検討している。

○伊藤大介委員

- ・P7の実績について、alkoの認知度についても具体的な数字を示すとよい。
- ・複数回答のグラフについて、選択肢の順序に意味を有さない場合は降順に並べた方が分かりやすい。
- ・P13の「今後やってみたいこと」は重要なデータであるため、グラフでの掲載を検討していただきたい。

○MURC

- ・複数回答のクロス集計グラフは、棒が多くなり逆に見づらくなる可能性がある。

○柴田会長

- ・修正版においてグラフと表を併記していただき、適切な方を選ぶとよいだろう。

○関委員

- ・P18について、世話役は負担感もある一方で、やりがいを感じる部分がある。そうしたニュアンスを記載できるとよい。また、コメントに対応したグラフが掲載されるよう、順番を分かりやすくするとよい。

○山下市長

- ・P3の健康いきいきポイント制度とalkoの説明がやや分かりにくい。取組を知らない方にも伝わるよう、適宜補足するなどの工夫をしてほしい。

### ③第3章 健康・支え合い循環施策の推進に向けた視点（第1節）

#### ・事務局による資料説明

##### ○柴田会長

- ・P20の「働き世代」という表現は、「働いている世帯」といった表現の方がよいかもしれない。

##### ○田中委員

- ・P19の「ウィーキング」を「ウォーキング」に修正していただきたい。

##### ○伊藤大介委員

- ・ページごとに事例が掲載されているが、他の地域での事例であることを明確にしておくとうい。
- ・冒頭の文章において、「重要です」「望まれます」「考えられます」などの表現について、読者の視点で考えると、使い分けを明示するか、すべて揃えてもよいのではないか。

##### ○MURC

- ・基本的には「望まれます」と表記している。強調したいことは「重要です」、アイデアなどは「考えられます」と表記している。今回の会議でご確認いただき、ポイントの1つである。

##### ○柴田会長

- ・前回までの会議では短期的な取組と長期的な取組を分けて整理するといった話があったが、具体的な取捨選択などは、今回の議論を踏まえて市が判断する形を想定している。

##### ○山下市長

- ・「事業等の推進に向けて持つべき視点」が3点に分けて整理されているが、1点目と2点目は重複する部分などもあるように感じる。

##### ○柴田会長

- ・1点目は少なくとも「仕組みづくり」にした方がよいだろう。たしかに1点目は、仕組みなのか、きっかけづくりなのか判断しづらい部分がある。

##### ○MURC

- ・1点目は対象者全体への働きかけ、2点目は特に重視すべき対象への丁寧な働きかけといった形で整理している。分かりにくい点があればご指摘いただきたい。

○山下市長

- ・ 仕掛け・仕組みと働きかけは分けた方がよいのではないか。仕掛けや仕組みはこれまでの議論でも貴重な意見が出ていたと思う。ポイント制度に関する具体的な仕掛け・仕組みが該当するだろう。一方、alko は高齢者になる前から健康づくりに関心をもっていただくための1つとして広く利用を働きかけている。

○柴田会長

- ・ 仕組みは基本的には制度設計に関することである。チャレンジ企画は働きかけに近い気がする。
- ・ 2点目と3点目は順序を入れ替えた方が、全体の流れとして分かりやすいように感じる。
- ・ 発言した委員の内容も含まれているが、最終的には削除するものか。

○事務局

- ・ 公表時には委員名は削除する。

○伊藤博美委員

- ・ 3章は施策推進に向けた視点を記載する部分であるため、先に小牧市の取組を記載し、その後課題や望まれている事項などを記載した方がわかりやすい。

○MURC

- ・ 現状の取組は第1章で記載しており、第3章には今回の議論を踏まえ、今後小牧市が工夫して取り組んでいくべきものを抽出して掲載している。

○柴田会長

- ・ 読者の立場からは、現在の取組について記載したうえで、主な意見を示す形にした方がわかりやすいかもしれない。一度事務局で検討いただき、修正版を送付する際に委員に確認いただくとよい。

**③第3章 健康・支え合い循環施策の推進に向けた視点（第2節）**

- ・ **事務局による資料説明**

○山下市長

- ・ 第1節と同様、1点目の仕組みに関する内容と2点目のきっかけづくりについては整理が必要だろう。
- ・ P25の田中委員の発言について、「承認される」の主語がないため、検討できるとよい。

○柴田会長

- ・ 「承認を得る」などにするとよい。

○柴田会長

- ・ 1 点目は「地域の支え合い活動への参加を促す仕組みと支援」としてはどうか。
- ・ 2 点目は「気軽な体験、参加のツールとしてのポイントの活用」としてはどうか。

○田中委員

- ・ P22 の取組の記載について、ワクティブ小牧はすでに開設して様々な活動しているため開設ではなく、「ワクティブ小牧で多様な活動の情報提供や連携支援などを実施している」とした方がよい。

○伊藤大介委員

- ・ 小牧市における取組はそれぞれの視点の冒頭に移動させてはどうか。現状を踏まえて課題を示し、今後の方向性を記載する方が流れとしてわかりやすい。

○柴田会長

- ・ P22 のサロンに関する主な意見について、「サロンによってはクローズドなところもあり～」などとし、様々なサロンの1つであることがわかるようにできるとよい。

○加藤委員

- ・ 現状や主な意見の順序は現行案が適切と考える。ここで記載している小牧市における取組は、視点に関連するものを抽出して記載したものである。先に取組を示してしまうと、なぜその取組が記載されているのかわかりづらくなるだろう。視点に関して、現在小牧市で行っていること、他都市で行われていることを示した方が流れとして違和感がない。
- ・ 各視点の整理の仕方や重複など、各委員のご意見のとおり精査が必要だろう。

○事務局

- ・ 小牧市の現在の取組は第1章・第2章で網羅的に紹介し、第3章では主な意見に関連する取組を抽出して掲載している形である。

○山下市長

- ・ 現在の構成を踏まえると、順序の変更を想定した場合、第1章・第2章に示している現在の取組を第3章の視点ごとに整理する必要がある、大幅な改変が必要になるだろう。

○加藤委員

- ・ 第3章は視点が最も重要なコンテンツであり、こうした視点について本会議で議論してきた。委員にいただいた多様な意見があり、そのうえで関連する取組を並べている。現行案の維持を推奨したい。

○山下市長

- ・第3章は市のすべての取組に対して網羅的に意見を整理しているものではない。
- ・視点の内容や組み立てに関する議論をした方がよいのではないか。

○伊藤博美委員

- ・構成の意図がよくわかった。「小牧市における取組」と記載すると網羅的なものに見えてしまうため、「着目すべき取組」などとする事で意図が伝わるのではないか。

○関委員

- ・P22の視点の中で「活動の相談や支援を行うことも重要」と記載されている。こうしたボランティアマネジメントの考え方は大事だと思った。
- ・P25の自身の意見については、市民活動団体のうち、サロン活動などを実施している団体に関して述べたものである。市民活動団体として一括りにしてしまうと対象が広くなりすぎてしまう。

○市長

- ・ポイントの対象となる活動については、様々な考え方があり切り分けが難しい。千葉市の事例のように、市がポイントの対象となる活動を指定する形がよいのではないかと思った。

○伊藤大介委員

- ・第2章に示した現状や課題とP25の内容がどのようにリンクしているか。そのあたりの繋がりが読み手にもわかるようになるとよい。

○柴田会長

- ・課題と視点の対応関係を示すということだろうか。

○加藤委員

- ・本会議では体系的な議論というより、取組の推進に向けて多様な意見を出し合ってきたため、課題や視点を体系づけて整理することには無理がある。それを最大限わかりやすい形に整理したのが現在の形ではないか。
- ・P25の視点については、「メリハリをつけてポイントを設定できる」という点を示すことが重要と考える。

○山下市長

- ・これまでの会議で体系的な議論をしてきていないことは事実である。今回の会議は結論を導き出して合意することが目的ではなく、委員の多様な意見を反映することが重要なため、必ずしも網羅的に体系立てて整理する必要はないと考える。

- ・すべての課題に対して答えを出したわけではないため、一対一での整理は難しいだろう。一方で、文章の中では、課題との対応などはもう少し工夫の余地があると思う。

○伊藤大介委員

- ・気づいた点を申し上げたため、最終的には事務局で良い形になるように確認をいただきたい。

③第3章 健康・支え合い循環施策の推進に向けた視点（第3節）

・事務局による資料説明

○柴田会長

- ・P26の基本的な考え方の文章については、私の方で改めて検討したい。

○伊藤博美委員

- ・P26の文章は、基本的なコンセプトとして冒頭に掲載してはどうか。

○柴田会長

- ・「はじめに」として掲載する形を想定し検討したい。

○市長

- ・第3節は視点が6つあり、他の節と比べてボリュームがある。第1節、第2節も含め、視点については一覧で掲載するページを設けた方が分かりやすい。

○柴田会長

- ・視点ごとの重複の整理や順番については検討の余地がある。

○伊藤大介委員

- ・第3節は、各視点や意見の記載についてレベル感が揃っている印象を受けた。
- ・P31の「孤独」については、「孤立」の方が適切かもしれない。孤立は人と接する機会のない状態を示し、孤独は主観的な感覚として使われることが多い。

○加藤委員

- ・これまでの会議で委員から出たアイデア等について、すでに施策に反映している点が非常に多いと思う。そうした実施状況なども参考資料として掲載できるとよい。

○伊藤博美委員

- ・参考資料のURLのみでなく、現在の取組についてもページがあればURLを掲載した方がよいだろう。

○田中委員

- ・今後の展開に関心をもっている。社会福祉協議会においても企業と連携した買い物支援など具体的な動きが出てきている。そうした中で健康と支え合いの循環事業も進めていきたいと思う。

**2) 閉会：市長挨拶**

○山下市長

- ・4回にわたり貴重なご意見をいただいたこと、感謝申し上げたい。これまでも重要なテーマについては、会議を設けて、丁寧な意見交換を重ねる方法をとってきた。本会議もその1つとして参加させていただいた。
- ・現在、小牧市は3つの都市ビジョンでまちづくりを進めているが、本テーマは非常に難しく、しかし、重要なテーマであると認識している。コロナ禍からの正常化を図っていくタイミングで様々なご意見をいただくことができ、再スタートを図っていけることはありがたいと思う。
- ・議会においても、本テーマについて本会議の議論を参考に答弁をさせていただいた。はじめの1歩を踏み出せる仕組み・仕掛けづくり、alkoのチャレンジ企画のさらなる推進、懸賞制度の活用方法、団体や担い手の負担の軽減やマッチング機能などについて述べた。今回の報告書を今後も活用していきたい。
- ・先日取りまとめた市民意識調査結果では、まちの住みやすさについて、「住みよい」が90%を超え、定住意向も88.2%であり、前回と比べて上昇した。健康や支え合いの取組はこうした部分にも関係していると考えている。
- ・可能であれば、委員の皆様には引き続き推進に向けた検討や進捗状況の確認など、今後もフォローしていただけるとありがたい。

**3) 連絡事項**

- ・3/24～29頃を想定して、修正したとりまとめ案をご確認いただく予定である。本日は長時間にわたり、貴重な意見を頂戴し感謝申し上げます。本日の会議録について、内容の確認にも協力をお願いしたい。

以上